

推薦の言葉

医学研究の用語で、トランスレーショナルメディシン、というものがあります。基礎研究の成果を実臨床での患者治療に実効的につなげるための研究領域のことですが、本書を拝読しながら、ふとそのような用語が頭をよぎりました。

腎臓病学に関連する成書には、腎生理学など基礎医学領域のものから臨床内科学系の教科書、さらには腎臓病学専門書など、古典とよばれる名書が数多くあります。これらは医学生から研修医、一般診療医、専門医とそれぞれの段階で必ず手にとり、インターネット全盛の現代においても医学知識を振り返るうえで最も重要な拠り所となるものです。しかしながら、これらの知識を目の前の患者さんに実践するノウハウについては、なかなか触れられる機会がありませんでした。あるいはこう言い換えてもよいかもしれません。患者さんへの還元を前提として医学知識を整理するような試みは、どちらかと言えば限定的でした。こういった、エビデンスとクリニカルプラクティスのギャップに上手く問いかけてくれるのが本書の最大の特徴かと思います。

このようにご紹介してみると、対象読者層は主に初期研修医から内科専攻医、一般診療医の先生方が中心かと思われましたが、本書はそこに留まりません。所々に腎臓病学のマイルストーンとなった発見や研究成果、さらには医療政策・法制上の重要な背景知識に関する記載なども散りばめられており、腎臓専門医にとっても勉強になり、十分以上に楽しめる内容になっています。私自身も、インドのヒンドゥー教の医師が紀元前4000年前に尿タンパクを見つけたという話（「6. 尿タンパクの捉え方」より）など、全くもって知る由もありませんでした。

本書を手にとられるすべての先生方に腎臓病学を楽しんでいただけることを、そして何らかの形で明日の日常診療のお役に立てていただけることを、心より願っています。

2022年 夏

東北大学病院 腎・高血圧・内分泌科 教授
田中哲洋